



世界農業遺産

Globally Important Agricultural Heritage Systems

トキ と共生する佐渡の里山

朱鷺の舞う里を
未来へ
受け継ぎたい



水田での江の設置



ふゆみずたんぼ



魚道の設置



ビオトープの設置



環境に配慮し育てられた米は、「朱鷺と暮らす郷」の名称でブランド化されています。

トキの餌となるドジョウなど多様な生きものが生息できる水田環境を整えるために「生きものを育む農法」に取り組んでいます。



世界農業遺産認定による効果

農林水産業

認証米のブランド力向上と販路拡大

- 朱鷺と暮らす郷づくり認証制度のブランド力向上のため、要件の検討、PRイベントの実施、普及啓発活動の展開
- 販路拡大のため、お米屋さんを中心とした営業活動。佐渡産品を取扱う「サドメシラン」の普及拡大活動



- 朱鷺と暮らす郷認証農家数 : 256戸 (H20) → **407戸** (R1)
- 朱鷺と暮らす郷認証面積 : 426ha (H20) → **1,038ha** (R1)
- 農業法人等組織化数 : 28団体 (H23) → **59団体** (R1)
- 新規就農者数 : 延べ10名 (H24) → **延べ67名** (R1)
- 朱鷺と暮らす郷販売米穀専門店店舗数 : 150店舗 (H23) → **299店舗** (R1)

観光

『トキと共生する里山』を巡る交流人口の増加

- 国内で初めて世界農業遺産に認定された島の農業システムを確認に訪れる交流人口の拡大に向け、PRイベントの実施、ツアーの造成、ブランドマークの開発、田んぼアートの実施
- 島で幅広く活動する「地域おこし協力隊」が任期を終えた後も、多くが島に残って暮らしている



▲田んぼアートの実施

- 世界農業遺産の認知度(島内): - (H25) → **74%** (H29)
- トキの森公園来場数 : 144,965人 (H23) → **142,669人** (R1)
- 佐渡棚田協議会会員数 : 17人 (H24) → **55人** (R1)
- 地域おこし協力隊採用人数(延べ)、定着率 : 4人 (H24) → **35人** (R2) 定着率**80%** (R2)
- 佐渡市農業遺産ブランドマーク申請件数(延べ) : - (H23) → **41件** (R1)
- 田んぼアートイベント(田植え・稲刈り)参加人数 : - (H23) → **200人** (R1)

次世代への継承

農文化で育まれた伝統芸能の継承

- 国内の3分の1の能舞台が島内に現存するなど五穀豊穡などを願いながら継承してきた伝統芸能が残っている



▲伝統芸能「鬼太鼓」

- 能舞台現存数 : 35棟 (H23) → **35棟** (R1)
- 鬼太鼓保存件数 : 約120件 (H23) → **約120件** (R1)

子どもたちへの環境教育、食育教育

- 身近な田んぼや川など、見慣れた風景の中に佐渡の自然が守られてきた仕組みや取組みを学ぶ教育活動を推進、食育から学ぶ農業
- 環境教育(トキ)を取り入れている島内学校 : - (H23) → **19校** (H30)
- 佐渡Kids生きもの調査隊隊員数 : - (H23) → **37人** (R2)
- 島内小中学校給食における認証米使用率(米粉含む) : - (H23) → **100%** (R2)

生物多様性の推進

生物多様性を支える仕組みや取組

- 野生に放たれたトキと人が共生できる里山環境を取り戻すため、トキをシンボルとした多くの生きものが棲む安全・安心な農法を追求
- 生きものを育む農法、生きもの調査といった取組が浸透し、トキのエサ場となる安心・安全な多くの田んぼが保たれ、環境省が目標としたトキの定着数を2年早く達成
- トキの増加による未来の影響を、集落モニタリングを開催し意見交換を行う



▲年に2回実施する「生きもの調査」

- 野生化のトキの個体数(推定) : 49羽 (H23) → **401羽** (R1)
- トキ環境整備指定寄附金額 (H23から累計) : 7,668千円 (H23) → **69,985千円** (R1)
- トキファンクラブ会員数(累計) : 4,181名 (H23) → **8,395名** (R1)
- 生物多様性の認知度 : - (H23) → **78.4%** (H29)
- モニタリング参加集落 : - (H23) → **2集落** (R1)